

R.I.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

留学については高校の時からずっと行きたいと思っていました。英語を話せるようになることへの憧れがずっとあり、入学当初から留学のことは意識していました。最初は 1 年間の協定留学に行きたいと思っていましたが、協定留学は留学者選考の基準が高く、英語が得意ではなかった私にとっては大きな壁でした。また、留学へ行くとしたら 1、2 回生の間と決めていて、そうすると準備期間がとても短く協定留学は不可能に近かったです。そんな時、セメスター留学の存在を知り実際に国際交流センターへ行き、話を聞いて私には協定留学よりセメスター留学の方が向いていると考え直し、目標をセメスター留学に変更しました。その時の私は何よりも英語への苦手意識をなくしたかったのです。留学を決意したのは、大学生活が始まり何か物足りなさを感じていたことも大きな理由です。このままじゃ駄目、自分を変えたいと思い留学をするという大きな決断をしました。

② 留学決定から出発までの準備期間

当時私はパスポートを持っていなかったなのでその手続きから始めなければなりません。一人暮らしをしていて住民票が地元にあったので親にいろんな資料を送ってもらいながらで少し大変でした。飛行機の予約は生協でやってもらいました。留学までの学習としては語彙力の向上とリスニングの強化を重点的にしました。教材は高校の時に使っていた単語帳とテレビでやっている英語のアニメーションでした。しかし、自分の思うようにはなかなかいきませんでした。

③ 現地到着後

私は地元である愛知のセントレア→成田空港→バンクーバー→ウィニペグの順に乗り継ぎをし、カナダへ行きました。飛行機の不備などがあり、到着時刻が大幅に遅れていて現地へ着いたのは真夜中だったのですが、ホストマザーとファザーが迎えに来てくれました。空港から家までは車で約 40 分でした。私は念のためオリエンテーションの 2 日前に現地に着くようにしました。留学仲間の友達と一緒に行ったので一人で行くより不安は半減したと思います。オリエンテーションは大学についてと英語プログラムについての説明でした。昼食は出ました。家からバスで大学に通う場合はオリエンテーションの日にバスパスを買うといいです。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私が通っていたマニトバ大学は本当に広かったので移動が大変でした。大学には食堂、コンビニ、コーヒーショップ、ジム、ビリヤードの施設があり充実しています。先生方とても親切でした。

◆ 授業内容、課題、試験

日本で受けるプレイスメントテストで授業のレベルが決まり、テストに受かることで徐々にレベルも上がっていくのですが、最初の方は授業の内容が簡単すぎると感じました。だから、より高いレベルの授業を受けたいと思うのならプレイスメントテストでしっかりと点数を取れるようにちゃんと勉強することをお勧めします。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

火曜日にスポーツデイ、木曜日 Conversation Cafe があり、毎週末必ず何かしらのアクティビティがあります。週末のアクティビティとしては動物園や beach へ行ったり、アイススケートをしたりとさまざまです。

⑥ 現地での住まいについて

私は 5 か月間ホームステイでした。家から学校までは約 45 分で、毎日バスを使って通学していました。朝食はシリアルを食べ、お昼ご飯はたいてい前日の夜に自分で作って大学に持って行きました。夕食はホストマザーがおいしいご飯を作ってくれました。私のホストファミリーはクリスチャンだったので、毎週日曜日に教会へ行っていて、私もたまに連れてってもらいました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

約 1 週間程度の長期休暇は 2 回ありました。1 回目の休暇はトロントとニューヨークへ行きました。2 回目の休暇はお金の関係もあり、ウィニペグに残り、旅行には行きませんでした。その代わりに現地の友達と遊びました。また、帰国する前にバンクーバーに 3 泊して観光を楽しみました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

私の留学生活での一番の思い出はやはりたくさんの人と出会い、友達になれたことです。日本にいたら出会うはずのない人たちとウィニペグで忘れられない日々を過ごすことがで

きました。たくさんの初めてを経験することができました。特に私は中国・韓国の留学生と仲良くなり、一緒にご飯を食べたり、遊びに行ったりする中で、英語で会話する楽しさを知りました。また、Folklorama というフェスティバルに参加できたことも忘れられない思い出です。この約 5 か月間の留学を通して、私は本当にかけがえのない経験をし、大きく成長することができました。間違いなくこの留学は私の人生の大きな財産であり、これからも私の支えになってくれると心から信じています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

まず、私はカナダに行って一か月が経つ頃に携帯をなくしました。これがスリだったのかどうかは今もわかりませんが、本当に大変でした。しかし、ホストマザーが本当にやさしい人でバス会社に電話してくれたり、警察への落とし物届の提出を手伝ってくれたりとかさんの手助けしてくれました。海外に行くときはスリと落とし物には本当に気を付けてください。海外の生活にも慣れ、油断し始めたころが一番危険です。結局携帯は見つからず、最終的に親に日本から新しいものを送ってもらいました。約 1 か月の携帯なし生活をしましたがとてもしんどかったです。

次は英語学習について話します。確かに留学する前に比べたら確実に英語は話せるようになったし、聞き取れるようになりました。しかし結局、最後の最後までネイティブの人の会話についていくことができませんでした。何より聞きとることができなくて本当に悔しかったです。また、思っていたより日本人留学生が多く、日本人同士では日本語を話してしまいました。それに加え、英語ができる友達との差を感じて嫌になったり、悔しくなることも何度かありました。ですが、その悔しさが逆に私をもっと頑張らなきゃという気持ちにさせてくれました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

- ・夕食がたいてい 6 時（早いときは 5 時半）
- ・Tip 制度（私のところは大体 10～15%でした。）
- ・交通手段がバスか車しかない（車はなかったのではほとんどバス移動。バスは時間通りに来ない。遅れたり、先に行ったりする。）
- ・お店が閉まるのが早い（特に土日は店が閉まるのが早いので買い物はお早めに。）
- ・日本食料理屋さんがあり、日本食も売っている

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン、洗濯ネット、ドライヤー、アイロン、薬

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

まずは語彙力の向上。日常会話で使う単語はほとんど身に付きます。そして私にとって、英語への苦手意識がなくなり、英語で会話することを楽しいと思えるようになったことが何よりも大きな収穫だったと思います。また、カナダでの生活を通して他国の文化に触れると同時にたくさんの友達を作ることができました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

家族や友達と離れ、日本語が通じない外国へ行くのですから不安はあって当たり前です。しかし、人間は自分が今いる環境や生活に適応し時間が経つにつれて慣れるものです。不安や心配事はあると思いますが、新しい場所での新しい生活に希望を持ってください。私はこのカナダ留学が初めての海外でした。入国審査から、乗継ぎ、外国での買い物まで全てが初めてのことでした。ですが、友達と一緒に行ったので不安は少し和らぎました。一人がどうしても不安なら同じ場所に留学する子と一緒にいくといいと思います。そして、帰国する頃にはカナダで生活することが当たり前になっていました。この留学は間違いなく自分が成長できる大きなきっかけであり大切な時間です。皆さんはいろんな葛藤や覚悟をしてこの留学をしようと決意したと思います。あの時こうしていれば、もっと積極的になっていればなどの後悔をしないようにしてください。留学に行ったからといって英語が勝手に上達するということはありません。すべては自分がどう行動するかです。みなさんが5か月という貴重な時間を有意義に過ごせることを願っています。



マニトバ大学での私のクラスメイトです。生まれた国も育った環境も文化も違うけれど、彼らとの出会いは本当にかげがえのないものでした。一緒に過ごした時間はたった数か月でしたが、彼らはこれからもずっと私の大切な友達です。



Language exchange という一種のクラブ活動で出会った人たちと流しそうめんをした時の写真です。他にもたこ焼きパーティやスイカ割りなどをしました。

H.K.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私は留学には小学校、中学校くらいの頃から興味がありずっとしたいというか絶対しようと思っていました。そして、高校の時に 1 か月弱の短期留学に参加し、1 年の留学にも応募したのですが残念ながら狭きものだったのもあり、行くことはできませんでした。その後大学では絶対に行こうと思い、大学に入ってから留学用の講座も積極的に参加しました。ですが残念ながら大学の留学もかなりハードルが高く、正直言って協定留学でもかなりお金がかかるのを知り、他にもやりたいことができたので 1 年の夏休みで諦めました。そんな中 1 年の秋学期が始まり、わたしの先輩がセメスター語学留学に行ったと聞いてこれなら私でも行けるのではないかと思いました。そしてその当時付き合っていた人が今すぐではないが、将来的に留学しようか考えているという話をされて、わたしはその言葉に押されてやはり諦めきれていなかった留学という夢をもう一度追いかけてみようと思いました。ちょうどその時が 2 年春学期のセメスター語学留学の応募受付が始まったところでした。とにかく申し込まなければと思い、自分で色々調べて応募しました。今ではその人たちに本当に感謝しています。

② 留学決定から出発までの準備期間

とにかくこのプログラムに応募した時から、夏休みでやめていた留学用の勉強をまた続けようと思いました。テキスト、単語帳を引っ張り出し、当時からとっていた CASE の授業も真面目に受けようと思いました。思ったよりも留学がスムーズに決まってくれて、国際交流センターのサポートを受けながら様々な準備をしました。特にしっかりした準備というのは、わたしが行ったのはカナダだったので半年以内ならビザもいらず、期限の切れたパスポートを更新するだけでした。あとはネットでカナダの大学のアカウントを作り、Placement Test を受けたというのが少し日本にはないことで慣れないことでした。

③ 現地到着後

現地到着後にホストマザーが空港まで迎えに来てくれました。ホームステイでは最初と最後の送り迎えはホストファミリーが責任を持ってするというのが決まりらしく、もしホストファミリーの都合が合わなくてもスタッフが来てくれるので大丈夫です。寮には大学のスタッフが来てくれます。私は行きに一人で高校時代のホストファミリーを訪れるため

Vancouver に寄って、そこで他の 2 人と合流し、Winnipeg へ向かいました。ですが、Winnipeg へ向かう便に不具合があったため、振替便になり、元から Winnipeg 着がかなり遅かったのにさらに遅くなってしまいました。それでもホストファミリーは嫌な顔一つせずに、むしろ家に着いたらとりあえず疲れているだろうし先に寝なさいと言ってくれました。そして、次の日は家から大学への道のり、どのバス停からどのバスに乗ってどこで降りるのかなどを一緒に行って教えてくれました。時差ボケを治すのと、色々（学校の道のりやハウスルール等）を教えてもらうために一日早めに到着した方がいいと思います。次の日、オリエンテーションではもちろん日本語を喋れるスタッフはおらず、説明もすべて英語で授業のクラス発表、学校紹介などがありました。このときに色々な Activity も教えてくれるし、みんな親切で話しかけやすいので気軽に質問もできました。ここで Student ID も作り、Bus Pass を買ったりもしました。

④ 語学研修機関

◆ 施設・環境・スタッフ

私は University of Manitoba の中にある語学研修機関、Intensive English Program というところで授業を受けていました、レベルが基本 6 段階あり、最初のパソコンでの Placement Test によって決められます。U of M の中の機関なので基本的に正規生と同じようにその大学の施設はすべて使えます。たとえば図書館で本を借りることもできるし、お金はかかりますが学生の値段でジムのメンバーシップに入ることもできます。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は、正直言ってわたしにとって簡単でした。とくに最初のクラスはまだ文法をやっていたので、中学か高校で習った内容という感じでした。その後のレベル 500、600 でも Paragraph や Essay などだったので受験の時に勉強したものや、CASE の授業でやっていた復習のような感じでした。でもネイティブの先生に添削してもらえるととてもいい機会だったのでそれはとてもよかったです。Paragraph や Essay ではだいたい週一で 1 つか 2 つ書いてくるぐらいのペースで、あとは Reading では単語やテキストの宿題が中心でした。試験は、たまにある小テストと期末テストは基本的に Placement Test と同じパソコンでするテストです。なので、パソコンには慣れておいた方がいいと思います。あと、Paragraph と Essay では実際に Writing のペーパーテストもありました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

課外活動としては、IEP の Activity に積極的に参加していました。毎週水曜日に Sports Workshop、木曜日に Conversation Café、あとは週末にそれぞれ遠出する Activity がありました。その週末の Activity ではアイススケートをしたり、動物園、蛇パーク、ゴーカートに行ったり、夏場はビーチ（湖）に行ったりしました。これは基本すべて無料で参加できるので 8 月以外はほとんど参加していました。8 月は日本人短期留学生がとても多く、共通言語が日本語と化していたので IEP の Activity にはあまり参加しませんでした。ですが、IEP の Activity で CAN\$600 くらいで参加出来る Banff Trip には参加しました。自然がとても綺麗で、かなりお得に行けるので行った方がいいと思います。あとは、わたしが毎週欠かさず行っていた Language Exchange というものがあります。これは、Winnipeg 市内に住んでいる日本語を学びたいカナダ人と英語を学びたい日本人留学生などが集まってお互い日本語と英語を教え合いながら会話するという活動で、これは IEP とは関係ないのですが、U of M の中でやっていたので参加していました。ここで多くのカナダ人と出会うことができたし、とてもみんないい人で、特に 8 月はずっとこの LE の友達と遊んでいました。今でもとても彼らが恋しいです。それとボランティアといえば、Winnipeg では 8 月に Folklorama という世界中の国々のパビリオンを開くお祭りがあるのですが、その日本のパビリオンにボランティアとして参加してきました。わたしは Bar と Food のボランティアをしました。やはり日本はとても愛されていて、いい経験になりました。あとその少し前に、広島、長崎の原爆の追悼として平和の日というイベントがあったのですが、そこで日本人数名で日本語の歌を歌い、みんなでキャンドルを作って水に浮かべて追悼を祈りました。小さなイベントでしたが、その日は雨で足場も悪かったのに思ったよりも人が来てくれてとても嬉しかったです。

⑥ 現地での住まいについて

現地ではホームステイで暮らしていました。私のホストファミリーはマザーが 1 人で、あとは犬が匹、猫 2 匹、鳥が 1 羽という動物園みたいな家でした。そこに留学生が最大で 4 人いて、いつもにぎやかなお家でした。立地は学校からも遠く、バス停も遠く、ダウンタウンもそこまで近くなくて終バスが早かったので少し暮らしにくかったです。しかし、家はとても大きく、庭にプールもあったのでとても楽しかったです。部屋も一人一つちゃんと与えてくれて、プライベートもあったのでとてもよかったです。食事は、日本に比べたらかなり微妙でした。カナダ人の家って感じで、コストコから買ってきた冷凍食品や、加

工済み食品ばかりで、ジャンクフードがディナーで出ることもしばしば。朝ごはんはランチも自分で用意するスタイルでした。基本的に冷凍食品生活でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は 2 回あったのですが、2 回とも旅行に行きました。1 回目はちょうど同じ時期に IEP に入った日本人合計 6 人で Toronto と New York に一週間弱行きました。Toronto では CN Tower や Niagara Falls などに行きました。Toronto は思ったよりもかなり都会でしたが特になにも無かったです。むしろ Niagara Falls で一泊すればよかったなと思いました。一方、NY では行くところが多すぎて回りきれませんでした。さすが NY は世界の中心という感じでとてもよかったです。2 回目の休暇では、IEP で同じクラスだった日本人の子と、香港出身の男の子と 3 人で Los Angeles に行きました。そこでは Hollywood はもちろん、Santa Monica、Universal Studios Hollywood、Disney California Adventure Park などにも行きました。あと一日だけ Grand Canyon に行くため Las Vegas に行きました。やはりアメリカはすごかったです。あとやっぱりカナダからならアメリカへの旅行がとても安く行けるので是非行くべきだと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一番はやっぱり Language Exchange です。ここで出会えた友達は一生の友達で、今度日本に遊びに来てくれる人もいるし、また Winnipeg にいつか遊びに行こうと思えるのも Language Exchange があるからだと思います。ここでは様々な出会いもあり、色々なことに参加できる機会ができました。本当に感謝しています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

一番辛かったのは食事です。特に好き嫌いもなくなんでも食べられるのですが、正直夜ご飯でさえジャンクフードや同じ食べ物ばかりで辛かったです。わりと健康には気を使う方なので、野菜もしっかり食べたいし、バランスの良い食事を心がけたかったのですがそれも難しく肌が荒れたりもしました。これはそのホストファミリー先によって違うのかもしれませんが、やはりカナディアンはあまり食に気を使わずサプリなどで栄養を補っている人が多いです。あと、カナダは少し物価が高い、もしくは税金がかなり高いのでなかなか思うように物を買えず、食費などを押さえるのも大変でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

食事をする際に家族団欒というのをかなり重んじるのが一番驚きました。朝、昼ご飯は各自家にある物を自分で調理したり、残り物を食べたりして食べるのですが、夜ご飯だけはきちんと家族でテーブルで話しながら食べるようです。毎日学校もあるし、その後の Activity に参加したり、ジムに行ったり、放課後友達と遊んだり、ご飯を食べに行くこともあるのでしんどかったです。しかも夜ご飯が 5:30~6:30 くらいなので結構早く、放課後友達と遊んでいたら間に合わないです。朝昼は全く放任なのに夜ご飯だけそんなのはしんどいと思っていました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必ず持って行った方が良いでしょう。Writing の課題などはパソコンの方が楽だし、自分で旅行の予約などをするのにパソコンがあればプリンターで印刷もでき、かなり便利です。あと他に持って行ってよかったのは洗濯ネットくらいですね。寮では洗濯紐とかも持っていくべきだと思います。持っていけばよかったと思った物はお箸です。これも家庭によりますが、お箸がない家もたくさんあるので持って行った方が食事がしやすいし料理もしやすいです。

② 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

リスニング力はかなり伸びました。本当に伸びたと思います。あとコミュニケーション力も伸びました。英語圏の人はみんな気軽に知らない人でも話しかけてくれる人が多いし、みんな陽気なのでとてもコミュニケーションが取りやすいです。なので、日本に帰ってきても友達とコミュニケーションが取りやすくなりました。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

とにかく行きたいと本気で思うなら諦めずに頑張ってくださいと思います。今すぐは行けなくても、いつか必ずいけるはずです。逆に、中途半端な気持ちならあっちで嫌なことがあるとホームシックに陥りやすいし、行ってもお金と時間の無駄に成りかねないので強い意志を持って頑張ってください。



Winnipeg にある唯一の日本人が経営している日本食レストランです。よくある外国風の寿司レストランとかではなく、ラーメン、うどん、オムライスなど日本の味を味わえる良いレストランです。おいしい日本食が食べたくなったらたまにここに行っていました。



Forkrolama でボランティアした時の写真です。一番前にはステージがあり、ステージでは太鼓や盆踊り、剣道など日本の伝統文化が紹介されるショーが行われます。私はこの日は Bar 担当でビールを注いだりしました。

Y. O.（社会システム学科・2 年次生）

I. 留学レポート

① 留学を目指した理由

私が留学をしようと思ったきっかけは、英語が嫌いだったことが一番の理由です。この留学では、大学に付属している語学学校で英語だけを学べると知ったので、本格的に行く事を決意しました。

③ 現地到着後

現地では、ホームステイをしていましたが、とても良いファミリーで相談もしやすく、英語の表現も教えてくれたので、本当にホームステイにしてよかったです。しかし、到着して 1 か月ほどわたしは日本で硬水を飲んだ事がなかったので、体調を少し崩しましたが、それ以外では全く苦労する事も困った事もなく過ごせました。

学校では先生によって課題が多かったりしましたが、授業が本当に楽しくて、しかも分かりやすく日本では教えてもらえないような事も教えてもらえたので、課題も苦痛に感じる事はほとんどなかったです。私の場合、分からない事を他の日本の大学の女の子に比べて積極的に質問をし、先生の質問にも答えていたので、基礎的な事からしっかり英語の勉強ができ、英語の話す力もすごく成長できたと思います。

④ 語学研修機関

ウィニペグには電車がないため、家から学校まではバスを 35 分ほど乗って通っていました。バスは、毎月バスパスという定期のようなものを買っていたので、どこに行くにしても乗り放題でとても便利でした。また、ウィニペグには、日本では考えられないほどの野生の動物があちこちにいます。そして、自然がとても豊かで、空気もすごくきれいです。なので、朝、昼、夕方、夜全ての空がすごくきれいで夜私は運良くオーロラを 2 回観る事ができました。少し郊外から離れたところに行くと、プラネタリウムのような夜空も観る事ができました。このような経験は日本ではできない事だと思うので、本当に留学に来てよかったと思う事ができました。さらに、大学にとっても大きなジムがあり、私はスポーツが大好きなので半年で 7000 円ほど払い、トレーニング設備、プール、サウナ、体育館、ボールなどを使いたい放題使って友達や始めて会った人たちとバスケなどをして毎週楽しんでいました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

マニトバ大学はスポーツのクラブにすごく力を入れていて、とてもいい経験になると思います。私はサッカー部に所属させてもらいました。しかし、ワールドカップや現地の学生の夏休みなどが始まり、授業の都合で 2 ヶ月し所属できませんでしたが、所属させてもらった事でたくさんのことを得ることができたと思いますし、文化や考え方の違いをすごく感じました。その後は、放課後ブラジル人たちとサッカーをしていましたが、スポーツで様々な人とふれあった結果、色々な国の友達を作る事ができて本当によかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

休暇については、2 ヶ月に回 1.5 週間ほどの休みがあったので、その長期休みには、日本から行くのに比べて、カナダ国内やアメリカにビックリするほど安く行ける事を知り、ニューヨークやロサンゼルスなどに旅行に行っていました。ただ、旅行に行くだけではなく、例えば、ロサンゼルスに行った時はヒスパニックの多さを実際に認識でき、勉強にもなりました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日焼け止めとムヒと虫除けの薬です。カナダでも買えますが、ムヒは日本の方が良く効きましたし、虫除けはきつく肌荒れしました。日焼け止めは、汗ですぐとれ、日焼けをかなりしたので、汗をよくかく人なら日本製を持っていくといいと思います。その他のものは日本と同じように買えたので特に日本から持っていくべきものはないです。

③ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

携帯についてです。向こうで会った、日本人の半分ほどの友達は携帯を失くしました。中には壊れた人もいましたが、行く前に iPhone を探すなどのアプリを取っておく事をおすすめします。また、そういった時の為に、USB を持っていきパソコンとつないでデーターを落としておくといいと思います。私はカナダで携帯の契約はしていませんでした。カナダは、日本とは違い、Wi-Fi が大学やお店、バス停などどこにでもあります。フリーWi-Fi がほとんどですが、とくに多いのが Shaw-Open という Wi-Fi です。切れてもまた接続すれば何回も使えます。それに、この Wi-Fi はバンクーバーやトロントでもあったので知っておくと便利でした。

最後に、私はこの留学中に向こうで出会ったたくさんの友達のおかげもあり、ホームシックには全くなりませんでした。なので、辛かったことはなかったですが、カルチャーショックを受けた事はたくさんありました。しかし、その中で驚いた事や、興味を持ったことを直接本人に聞いたりしていたので、毎回とてもカルチャーショックを受ける事が楽しかったです。そのような事もあり、私は5ヶ月間毎日かとても楽しく過ごせたので、1番の思い出や楽しかった事がどれだか選ぶ事ができませんが、こうした体験が5ヶ月だけでもできた事は、自分の人生の財産になったと思います。1年や半年や2週間行く長さも大切かもしれませんが、私は何より行く事に意味があると今回の留学で思いました。なので、少しでも留学に興味があれば、とにかく行く事をおすすめしたいです。



